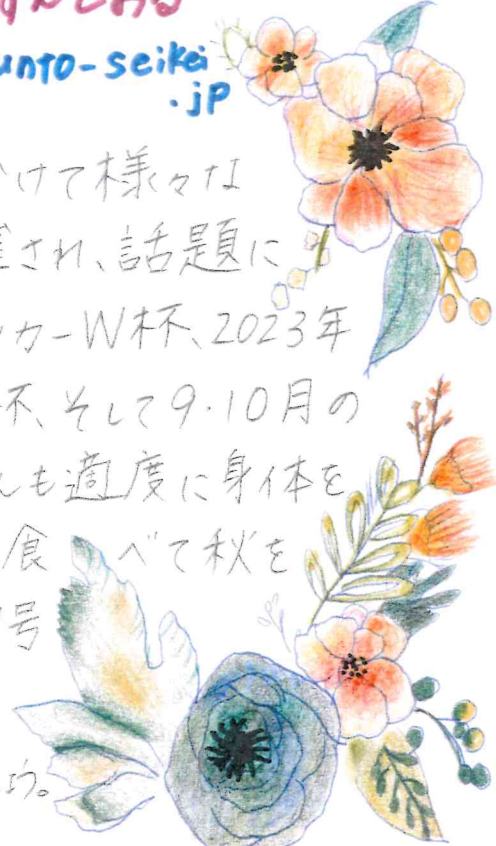


駿東新聞

第200号
R5, 9月

医療法人社団 すととおる

<http://www.sunto-seiki.jp>



昨年の冬から今年にかけて様々な球技の国際大会が開催され、話題にのぼっています。2022年11月サッカーW杯、2023年3月WBC、8・9月バスケットボールW杯、そして9・10月のラグビーW杯。スポーツの秋、皆さんも適度に身体を重かし、旬の美味しいものをたくさん食べて秋を存分に楽しませよう！さて今月号は、受付 柿原さんと一緒にあの頃タイムスリップしよう。

タイムスリップ 受付 柿原

みなさんこんにちは。口から生まれた受付嬢、柿原です。私が書き出す今回は、「あの頃」のお話です。さて、「あの頃」とはいつの頃の事だと思っておりますが、最後にあの頃を发表するので考えながら読んで下さいね。それでは、あの頃に向かってみよう！

むか～しむかしのあの頃、母が「お街に行く」と言うと、胸が躍り、心が弾み、体が踊らちゃうほど、ウキウキ、ワクワクでした。母の言う「お街」とは沼津駅南口辺りの事で、あの頃にはニキイがあり、富士急があり、西武、丸井、長崎屋、仲見世、宝塚ホテル、東映、沼津軒、アトしほなど、ほんでもそろっている所でした。

沼津駅南口
ニキイビル(現パレットビル)



その中でも特に気に入っていたのが富士急百貨店です。レストラン街、味の散歩道で食事をするのが楽しみで、「何を食べようか」と両側にあった食品サンプルのメニューを端から端まで見て歩きました。どのお店の席に座っても全ての店のメニューが注文出来たので、どのお店に入るか迷わしいケンカにはらひのが良かったです。よく注文していたのは一番奥右側の洋食店のジープ(車)の器の

お子様ランチと、一番手前左側の喫茶店のプリンアラモードです。注文した料理が出来るまでは兄と一緒におもちゃ屋ビノキオに行き、大抵は兄が欲しいおもちゃを見つけて「買ってーっ」と騒いで母に怒られるのを見て「私は怒られたいわけじゃない」と冷静に思ったのを覚えています。そして今も忘れられない味といえば、地下1階にあったフレッシュジュースです。帰りのバスの時間まで余裕があると、メロンジュースかミルクセーキを飲みました。中ジョッキ一杯で100円だった様は、安くてもめちゃくちゃ美味しかったあの素朴な味にまた出会いたいです。仲見世は、十字屋に洋服のスズタン、お菓子のすぎやま、文房具のイナ、雑貨のツチヤ、ペイントショップ芸のオオミヤにフカマツなどなど。奥まで長い商店街をジグザクに見て回るのが楽しかったです。もう長いこと「お街」に行きませんが、あの頃から続いているお店はどのくらいあるのでしょうか？ 近々、行ってみようと思います。今、沼津駅周辺は再開発を元々張っているらしいですが、あの頃のように「活気あるお街」に戻ってくれたら嬉しいですね。以上で私のタイムスリップのお話は終わりです。「あの頃」がいつか分かりましたか？ 答えは…昭和60年頃です。

活気ある沼津(仲見世商店街)



平成18年12月1日に創刊された駿東新聞も早いもので今月号で200号目を迎えました。これからも皆様にお手に取って読んで頂く為、職員一同楽しい新聞づくりを心がけていきます。

駿東新聞をどうぞこれからもご愛読ください！

